

第6回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 摘録

1 日 時 平成21年12月16日（水）10時30分～12時15分

2 場 所 新・都ホテル 地下1階 「陽明殿」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

(1)「歩くまち・京都」憲章（案）について

(2)「歩くまち・京都」総合交通戦略答申（案）について

【開会】

(水田交通政策監)

- 年末の大変お忙しい中、また冷え込みが厳しくなってきた中、お集まり頂きありがとうございます。前回の審議会から正副会長会議で様々な意見を頂くとともに、3つの検討部会を重ね、市民の皆様により分かりやすい交通戦略、京都市民に親しみのあるものになるよう検討を重ねてきて、本日が最終とりまとめとなる。
- 本審議会は昨年7月に始まり、審議会及び検討部会を23回、正副会長会議やコアメンバー会議、ワーキングを49回重ね、各委員に熱心なご意見を頂いた。また委員の皆様にはお1人おひとりの日頃のご活動の中で、京都のまちは歩いて楽しいということを市民の皆様に対して伝えてもらった。これまでの取組に感謝を申し上げる。
- 途中、会長の北村先生の旅立ちがあり、中には交通局退場勧告もあった。本来は今年の秋に最終とりまとめを行う予定であったが、12月にずれこんだことについて事務局として、お詫びを申し上げたい。本当に申し訳ありませんでした。
- 内藤会長代理のリーダーシップのもとで、本日の審議会を迎えることができ、シンポジウムを経て市民の皆様に「歩いて楽しいまち」について興味を持って頂いたことも肌で感じているところである。
- コペンハーゲンでCOP15に出席している門川京都市長からも、「世界を代表する都市が、環境問題解決を、交通政策を中心に取り組まれていることを目の当たりにし、京都もこれからも頑張っていこう」というメッセージがあった。交通戦略はやれるものからやっていくというスタンスであり、本日お手元にお渡しさせて頂いた資料の中には、交通戦略に関するこれまでの新聞記事を1冊にまとめて、参考資料としてお渡している。本日は、これまでの、そしてこれからの節目として大変大切な日になると認識している。委員の皆様には最後までよろしくお願ひしたい。

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 前回の審議会から、各副部会長を中心とした会議や個別のWGを繰り返しながら、京都の目指すべき交通まちづくりを如何に分かりやすく示すことができるかなどを中心に議論してきた。
- 本日の審議会では、最終のとりまとめを行ってまいりたいと考えているので、委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

【「歩くまち・京都」憲章（案）及び戦略答申（案）について事務局から説明】

- ※ 「歩くまち・京都」憲章（案）については、村上委員にご朗読いただいたCDを使用

【検討部会正副部会長から説明】

森本委員：京都工芸繊維大学教授（公共交通ネットワーク検討部会副部会長）

- 公共交通ネットワーク検討部会では、各交通事業者をはじめとする委員の皆様の、京都の公共交通ネットワークを良くしようという思いによって、ここまで来られたと思う。
- 公共交通ネットワークの構築の一つとして、ユニバーサルデザインの観点も多く入っているが、ハード面だけでなく、ソフト面での公共交通の利便性向上を掲げている。副部会長として、改めてお礼申し上げる。答申の内容を実現していくために、引き続きご協力をお願いしたい。

松中委員：京都大学大学院工学研究科准教授（未来の公共交通まちづくり検討部会副部会長）

- 未来の公共交通まちづくり検討部会では、将来のことを議論し、なかなか具体的な議論が難しい面もあったが、自動車利用を制限し、公共交通を便利にするということの一つの大きな方向性として打ち出すことができたと思う。
- そのために、道路空間の使い方をどうするのか、もっと人を優先するような使い方をしてはどうか、答申の概念図にもあるように、新しい公共交通のあり方を検討するエリアといったことを部会では検討してきた。

内藤会長代理：京都大学名誉教授（公共交通優先のライフスタイル検討部会部会長）

- 公共交通優先のライフスタイル検討部会では、「歩くまち・京都」憲章（案）や、モビリティ・マネジメント施策、また、ライフスタイル全般について検討してきた。憲章については、先ほどの村上委員の憲章の朗読を聞いて、素晴らしいものができたという思いを改めて確認した。
- 市民アンケートを実施したが、その結果からは、「歩くまち・京都」に対する市民の皆様の意識の高さが示された。

【意見交換】

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- いつもLRTのことを申しあげている。LRTについては、未来のまちづくりとして検討することとしているが、近い未来に実現いただきたいと思う。
- 御池通に駐輪場を作られており、大変素晴らしいことであるが、自転車については、スピードの出し過ぎなどによる事故が懸念される。「歩くまち・京都」を実現する上では、非常に重要なことではないか。

(事務局)

- 自転車の問題については、「歩くまち・京都」総合交通戦略の中では、あまりくわしく触れていないが、市では同時に、自転車総合計画を策定しているところである。京都市として十分に連携させながら取り組んで参る。

大志万委員：京都府警察本部交通部長

- 「歩くまち・京都」総合交通戦略の基本理念は非常に素晴らしいが、現実の問題と目標像の間にかかなりの乖離があるように感じる。その乖離を埋めるためには、3つのことが考えられる。1つは、クルマ利用に対する人の気持ちの問題、2つ目は、公共交通のシステムの問題、3つ目は道路環境整備の問題である。
- 自転車については、3つ目の道路環境整備に関する事で、自転車道の整備を推進する必要がある。府内の交通事故全体は減少傾向にあるが、自転車に関する事故は微増しており、事故全体の22%を占めるに至っている。京都府警としては、自転車の取り締まり強化に取り組んでいるが、「歩くまち・京都」を実現するためには、自転車問題は非常に重要であり、今後も、より強化して取り組んでいく。

佐藤委員：サントリー文化財団上席研究フェロー

- 「歩くまち・京都」憲章は、誰かを非難するものではなく、みんなが納得するプラスの表現をしており、大変すばらしいものをまとめることができたと思う。
- 北村会長が以前、電車での移動は、快適な空間で移動できるということが重要だとおっしゃっていた。観光シーズンでは地下鉄も満員になっている。公共交通を便利で快適なものとするのが重要である。
- 地下鉄からのフィーダ輸送の役割を果たすバスが減っている。憲章を制定したからには公共交通のサービス水準を上げる必要があり、憲章とそういった取組とが連動することで、公共交通を利用して生活しようという市民の機運が高まるのではないか。

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 観光シーズンの地下鉄は確かに満員で、乗車できない場合もある。公共交通の利便性向上の観点から、そういったことの改善も重要である。

- 本日は最終の審議会であるので、この内容で最終答申としたいと思うが、ご意見ないでしょうか。

(一同拍手)

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 拍手によりご了解を頂いたということで、この内容を答申として、市長に提出させていただきます。
- また、本日は最後なので、各委員から「歩くまち・京都」について一言ずつコメントをいただければと思う。

【各委員からのコメント】

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 今後 10 年先を見据えて、L R Tをはじめとする未来の公共交通を具体的に描いてもらいたい。より快適な未来の公共交通を実現できることを楽しみにしている。L R Tについては、どの地域で、どのように、どういった財源で実現するかを十分に検討する必要がある。絵に描いた餅にならぬように、すばらしい未来の公共交通を築いていただきたい。

佐藤委員：サントリー文化財団上席研究フェロー

- 本審議会に委員として参画させていただいて、感謝申し上げます。策定中であっても、できることから取り組む先行プロジェクトは非常にいいものだと思っている。今後とも、着実に実施していくことにより、「歩くまち・京都」の実現に近づいていくのではないかと期待している。

藤田委員：株式会社京都リビング新聞社 営業・編集統括マネージャー

- この審議会の委員になって、一番変わったのは自分ではないかと思う。クルマを使わずに、歩こう、地下鉄に乗ろうと思うようになった。
- また、封筒や名詞に「歩くまち・京都」の文字を印刷することや、公共交通のアナウンスを通じて「歩くまち・京都」ということを繰り返し伝えていくことで、市民の皆様に意識を高めていただくことが重要であると思う。

村上委員：株式会社京都放送ラジオ編成制作局長

- 憲章を朗読させていただき、誠にありがとうございました。検討部会での様々な議論に参加させてもらえて、とても良いものができたという喜びが、声に現れていたと思う。
- 私も、「歩くまち・京都」については、ラジオでPRをしている。京都市の取組である地下鉄川柳についても番組で紹介させていただいた。人の気持ちを動か

すことは非常に重要であると感じており、今後もラジオを通じて「歩くまち・京都」憲章と戦略をPRしていきたい。

- ラジオの番組表に、KBS京都周辺を歩いてもらいたいという趣旨で史跡マップを作成したが、非常に好評で、増刷もした。また、藤井先生には、ラジオに出演いただき、リスナーの方からは非常に好評で、地方から訪れる方からは、詳しい地図付きのモデルコースを紹介してもらいたいなど様々な意見が寄せられた。

石塚委員：国土交通省近畿地方整備局建政部長

- 憲章の内容は、とても素晴らしいと感じている。「歩く」という行為は、考え事をしたり、立ち止まったりと、クルマや自転車での移動とは違う意味合いがあるように感じている。京都には歩いてこそ味わえる史跡が随所に点在している。21世紀のまちは、こうあるべきだということがこの戦略には書かれており、京都から、また、近畿から世界に発信していきたい。

平嶋委員：国土交通省近畿運輸局企画観光部長

- 憲章と戦略を拝見して、非常に格調高く、分かりやすい内容で素晴らしいものだと感じている。時間価値が高まる中、これまで合理的、効率的に動くことを優先してきたが、新しいものを目指しながら、日本で古くからあった人と人の触れ合いを取り戻すということが必要ではないかと感じた。
- この憲章は市民の方にとっての憲章であるとともに、観光客の方にも大きな意味があるものである。歩くという行為は、人との繋がりやその土地の生活や文化に対する深い理解を促すものである。そういう意味で、歩いてゆっくり京都を巡ることで観光客の満足度も高まるのではないかと思う。
- 憲章と戦略の具現化にあたっては、情報発信が重要である。観光シーズンの混雑の問題が話題に挙がったが、複数のルートの選択肢を周知していくことが、人の流れを分散させて、混雑解消の一つの有効な手段ではないか。

関委員（代理）：京都府建設交通部交通政策課長

- 京都府でも、クルマから公共交通への転換を促すモビリティ・マネジメントの取組を進めているところである。今年度から、従来の交通対策課から交通政策課に名前が変わり、ハード整備だけでなく、既存の公共交通施設をどう活かすか、といった視点で進めていくという意思を持って取り組んでいる。
- 京都に公共交通で来て本当に良かったと感じていただくことが、とても重要なことである。

(太田総務部長メッセージ代読)

- 世界に誇る京都をよりよくしたいという熱意が伝わってくる。審議会委員として議論に加わる中で、広域的に物を見る重要性を学んだ。京都府としても広域行政の観点から交通まちづくり、環境等各方面に渡りこれまで以上に府市の発展に

繋げていかなければならないと痛感している。門川市政のもと、今後戦略、憲章が大きく育つことを願って止まない。

湊委員：西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長

- 今あるインフラをより有効に活用するためにも、事業者間の密な連携が重要であるということを改めて認識した。
- 観光客に対する提言もまとめて頂いたところであり、京都市の観光施策にも沿った提言で、よい内容だと思う。
- 先ほど話題に出た交通機関の混雑については、事業者として耳の痛いところであり、新快速の混雑等についても意見を頂いている。これからの時代に見合っ、どういったことが出来るか検討して行きたい。

森本委員：京都工芸繊維大学教授

- 大学の中でも自転車の事故が増えている。自転車総合計画と連動しながら、自転車の啓発活動を進めて頂きたい。
- 「歩くまち・京都」総合交通戦略の3つの柱の相乗効果の発現に努めて頂きたい。

松中委員：京都大学大学院工学研究科准教授

- 「安心して快適に歩けることは市民の基本的な権利である」ということを根本に憲章を作ったということが最も重要なことであると感じている。
- 今日は最後の審議会であるが、50年後の京都市民に「昔の審議会のおかげで良いまちになった」と言ってもらえるようにするための取組の始まりでもある。

谷口委員：立命館大学情報理工学部助教

- 「歩くまち・京都」の脱クルマという観点から、クルマから何に乗り換えるのかを考えると、自転車を如何に活用していくかということが重要になってくると思う。自転車が活力の源泉になればと思うが、課題も多いので、自転車を暖かく見守って伸ばして頂ければと思う。

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- 10年ほど前に、LRTや歩くまち観光ルートを提案したことからまちづくりに関わるようになってきた。商売だけでも市民だけでも観光客だけでもいけない、みんなにとって良いまちとなるように考えて実行していかなければならない。市民合意が大事である。LRTが走る日が近づいてきたと感じることが出来、大変嬉しく思う。

上村委員（代理）：阪急電鉄株式会社都市交通計画部長

- 鉄道の端末交通の充実が重要であるという観点から、駅でのレンタサイクルに取り組んでいる。
- 鉄道とパーク・アンド・ライドやカーシェアリングとの連携も重要であると感じている。
- 通勤通学だけでなく、観光の視点の強化が必要。自宅で観光情報を見る時から観光は始まっている連続性のあるものと認識しており、移動の経路を楽しめるものとなる必要がある。

前田委員（代理）：京阪電気鉄道株式会社鉄道企画部課長

- 憲章についても答申案についても良いものができた。これを実現することが、もっと大変である。どれも簡単にできるものではないので試行錯誤を恐れずに取り組む必要がある。
- 観光の混雑については、時期的にもルートの的にも過度に集中してしまうことが問題であるので、複数ルートを作成して情報提供していくことが有効であり、その為には事業者連携が不可欠である。
- JRと連携して「散策マップ」を発行しているが、より充実していきたい。

葛西委員：京都市公営企業管理者（交通局長）

- 「歩くまち・京都」総合交通戦略が多くの方々に議論されながら出来上がったことは、バス・地下鉄事業者としては非常に心強いものと受け止めている。今まで、経営が厳しいということが先に立って、新しい取組に対して臆病になっているところがあったが、利用増進の取組に精一杯知恵を働かせて頑張っていきたい。

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 北村会長の代理ということで努めさせて頂いたが、専門的に不十分なところもあり、忸怩たる思いもある。各委員の皆様には、前向きにご議論頂き、心から感謝申し上げます。
- 事務局に対して、これまで関わってきた審議会などと比較しても、異例に前向きな熱意を感じている。大事なのはこれからだが、答申をまとめてお仕舞いというようなことにはならないと確信している。ありがとうございました。

（事務局）

- コペンハーゲンで COP15 に参加している門川市長から、御礼のメッセージが届いているので代読させて頂きたい。

(市長メッセージ代読)

- 審議会の委員の皆様方には、約1年5箇月間の長きにわたり、京都の交通まちづくり政策について熱意溢れるご審議をいただき、内藤会長代理をはじめ、委員の皆様にご心より感謝申し上げます。
- 現在、コペンハーゲンで開催中のCOP15に参加しており、改めて京都が世界の方々から注目されていることや、交通問題を中心とした環境問題への一歩二歩踏み込んだ抜本的な取り組みの大切さを肌で感じている。
- 人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現に向け、市民ぐるみで、また、関係機関のご理解のもとに、強力に推進して参りますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

(一同拍手)

【閉会挨拶】

(由木副市長)

- 4月に京都市に着任して今日まで取り組んできたが、答申を頂きとても感慨深い。各委員の先生方には本当に感謝している。
- 行政による施策の評価として、よく住民の満足度を尺度とするが、まちづくりの分野ではこれだけでは足りないと思っていつも仕事をしている。満足度は、「今のこと」「私のこと」を考えているので、どうしても「もっと欲しい」という欲張りな意見になってしまう。まちづくりは本来、他人のことや子どもや孫のことを考えながら進めなければならないと常々考えている。その意味で、「歩くまち・京都」の取組は、大変素晴らしい。これまではたくさんの物を持つことが幸せであったが、これからは21世紀にふさわしい幸福感とは何かを再構築していくことが求められる、と思っている。「歩くまち・京都」はその突破口になる。大変素晴らしい答申を頂いたことを本当に感謝している。
- 委員の皆様方からもご意見があったように、実はこれからが大変である。答申の内容を実現するために、全力で苦闘していく覚悟であるので、委員の皆様には様々な面で引き続きご支援とご協力をお願いしたい。
- この取組は、市民と一緒に進めないといけない。アンケートやパブリックコメント等を通じてご意見を頂いた方、傍聴に来て頂いた方、市民の皆様にご、大変感謝を申し上げたい。京都市からお礼と決意を述べ、閉会の挨拶とさせて頂きたい。本当にありがとうございました。

第6回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 出席者名簿

(敬称略)

会長代理	内藤 正明	京都大学名誉教授
委員	石塚 昌志	国土交通省近畿地方整備局建政部長
〃	岩井 義男	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行
〃	上田 成之助	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
	(代理:前田 勝	京阪電気鉄道株式会社鉄道企画部課長)
〃	大志万 耕次	京都府警察本部交通部長
〃	太田 昇	京都府総務部長
	(代理:関 正典	京都府建設交通部交通政策課長)
〃	佐藤 友美子	サントリー文化財団上席研究フェロー
〃	角 和夫	阪急電鉄株式会社代表取締役社長
	(代理:上村 正美	阪急電鉄株式会社都市交通計画部長)
〃	谷口 忠大	立命館大学情報理工学部助教
〃	平井 義久	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長
〃	平嶋 隆司	国土交通省近畿運輸局企画観光部長
〃	藤田 晶子	株式会社京都リビング新聞社営業・編集統括マネージャー
〃	松中 亮治	京都大学大学院工学研究科准教授
〃	湊 和則	西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長
〃	村上 祐子	株式会社京都放送ラジオ編成制作局長
〃	森本 一成	京都工芸繊維大学教授
〃	由木 文彦	京都市副市長
〃	葛西 宗久	京都市公営企業管理者 (交通局長)

(事務局)

水田 雅博	交通政策監
田辺 真人	都市計画局長
佐伯 康介	都市計画局歩くまち京都推進室長
木村 裕	都市計画局歩くまち京都推進室担当部長
他	